

# #10 構造体

2022 年度 / プログラミング及び実習 III

角川裕次

龍谷大学 先端理工学部

# もくじ

## 1 第 12-1 節 構造体

## 2 第 12-2 節 メンバとしての構造体

## 今回 (#10) の内容：シラバスでの該当部分

小テーマ：構造体

第 16 回：構造体

第 17 回：構造体へのポインタ型

# 重要概念リスト

- 構造体：関連情報をひとまとめにする新たな型
- 派生型
  - 配列型 `Type a[n];`
  - 構造体型 `struct { Type1 m1; Type2 m2; ... } a;`
  - 共用体型 `union { Type1 m1; Type2 m2; ... } a;`
  - 関数型 `Type a(Type1 m1, Type2 m2, ... ){ ... }`
  - ポインタ型 `Type *a;`
- . 演算子により構造体のメンバをアクセス
  - 例：`point.x`
- -> 演算子によりポインタで指される構造体へのメンバをアクセス
  - 例：`p->x`
- 構造体は代入が可能
- 配列は代入が不可能

## 今回の実習・課題 (manaba へ提出)

実習内容と課題内容は講義途中に提示します

(作成したファイル類は manaba に提出)

## 第 12-1 節 構造体

## データの関連性 p.330

List 12-1 は学生情報 (名前と身長) を身長に関して昇順にソート  
学生情報 (名前と身長) は以下の形で記述 (プログラムコード詳細は省略)

```
int   height[] =           {178,      175,      173,  
                             165,      179};  
char  name[][NAME_LEN] = {"Sato",  "Sanaka",  "Takao",  
                           "Mike",  "Masaki"};
```

問題点: 学生に関する情報 (名前と身長) の記述が分離してわかりにくい

- 関連情報が別々に記述されているので修正・改造が困難 (保守性低)
- ソースコード上から関連性を読み取るのが困難 (可読性低)

解決法: 構造体 (structure) の導入:

ソースコード上でひとまとめにする記述をして保守性・可読性が向上

- 保守性向上: 関連する情報をひとまとめに記述
- 可読性向上: ソースコード上から関連性を容易に読み取れる

# 構造体 p.332

例：学生を表す情報の項目

- 名前, 身長, 体重

構造体によるデータ型の定義

```
struct student {  
    char    name[64]; /*名前*/  
    int     height;   /*身長*/  
    float   weight;   /*体重*/  
};
```

(新たなデータ型 struct student を定義するだけ; 変数宣言はまだ)

用語

- student : **構造体タグ** (構造体のおなまえ)
- name, etc. : **メンバ** (構造体中の要素)



# 構造体の変数宣言

変数 sanaka を宣言

```
struct student sanaka;
```

- 構造体 struct student は定義済みであること

複数の変数の宣言

```
struct student s1, s2, s3, s4;  
struct student s5, s6;
```

- 変数を 6 つ宣言

構造体のタグ名の定義をしない変数宣言も可能

```
struct {  
    int    x;  
    long   y;  
    double z;  
} a, b;
```

- 不便：タグ名が定義されないなので他の場所では使えない

## 構造体のメンバと . 演算子 p.334

構造体のメンバへのアクセス: ドット演算子 . を使用

例 : sanaka.height = 175;

List 12-2 (部分) : 学生情報を表す構造体の使用例

```
int main(void)
{
    struct student sanaka;
    strcpy(sanaka.name, "Sanaka"); /* 名前 */
    sanaka.height = 175;           /* 身長 */
    sanaka.weight = 62.5;          /* 体重 */
    printf("氏 名 = %s\n", sanaka.name);
    printf("身 長 = %d\n", sanaka.height);
    printf("体 重 = %.1f\n", sanaka.weight);
    return 0;
}
```

宣言時に初期値を指定することで構造体変数の初期化が可能

List 12-3 (部分) : 学生情報を表す構造体の使用例

```
int main(void)
{
    struct student takao = {"Takao", 173};
    printf("氏名 = %s\n", takao.name);
    printf("身長 = %d\n", takao.height);
    printf("体重 = %.1f\n", takao.weight);
    return 0;
}
```

初期値はメンバの順に書き連ねて { と } で囲む

```
{"Takao", 173}
```

初期化子の記述がなければ 0 に初期化される

- takao.weight の値は 0 に初期化

### 間接演算子とドット演算子を使用した例

#### List 12-4 (部分) : 構造体へのポインタとメンバへのアクセス

```
/* sが指す学生の体重が0以下であれば標準体重を代入 */
void set_stdweight(struct student *s)
{
    if ((*s).weight <= 0)
        (*s).weight = ((*s).height - 100) * 0.9;
}

int main(void)
{
    struct student takao = {"Takao", 173};
    set_stdweight(&takao);
    printf("氏名 = %s\n",    takao.name);
    printf("身長 = %d\n",    takao.height);
    printf("体重 = %.1f\n", takao.weight);
    return 0;
}
```

## メンバへのアクセス：間接演算子とドット演算子

アドレス演算子 `&` の使用例：構造体変数 `takao` へのポインタを得る

```
&takao
```

関数呼び出し例：ポインタを引数にして呼び出す

```
set_stdweight(&takao);
```

間接演算子とドット演算子の使用例：  
ポインタ変数 `s` が指す構造体のメンバ `height`

```
(*s).height
```

- 間接演算子 `*` でポインタから構造体を得る
- ドット演算子 `.` で構造体のメンバの値を参照

# メンバへのアクセス：-> 演算子

メンバアクセス演算子 -> で構造体のメンバを表す

例：ポインタ変数 std が指す構造体のメンバ height

```
s->height
```

- (\*s).height と同等

List 12-4 の書き換え例 (部分)

```
/* s が指す学生の体重が 0 以下であれば標準体重を代入 */  
void set_stdweight(struct student *s)  
{  
    if (s->weight <= 0)  
        s->weight = (s->height - 100) * 0.9;  
}
```

構造体の型名を typedef により別名を付けることができる

List 12-5 (部分)

```
typedef struct student {  
    char    name[NAME_LEN]; /* 名 前 */  
    int     height;         /* 身 長 */  
    float   weight;         /* 体 重 */  
} Student;
```

型 Student : 構造体 struct student 型の別名として定義

```
typedef struct student {  
    .... 略 ...  
} Student;
```

## 構造体への typedef の例

List 12-5 (部分)

```
typedef struct student {
    char    name[NAME_LEN]; /* 名前 */
    int     height;         /* 身長 */
    float    weight;        /* 体重 */
} Student;

void set_stdweight(Student *s)
{
    if (s->weight <= 0)
        s->weight = (s->height - 100) * 0.9;
}

...
```



対象の属性をひとまとめ：関連性がひと目で分かる

- ソースコードの可読性・保守性を向上できる
- ソースコードを書く時・読む時わかりやすく間違いしにくい
- あとから属性を追加するときわかりやすい

```
struct student {  
    char    name[NAMELEN];  
    double  height;  
    double  weight;  
} student[N];
```

対象の属性がばらばらに記述されると関連性が分からない

- ソースコードの可読性・保守性が悪い

```
char name[N][NAMELEN];  
double height[N];  
double weight[N];
```

## 集成体型 (aggregate type) p.340

いくつかのデータ型をひとまとめにしたデータ型

- 構造体 と 配列 はともに集成体型

配列と構造体の違い 1 : 要素型

- 配列 : 同じ型のデータ型の集成
- 構造体 : 同じ型とは限らないデータ型の集成

配列と構造体の違い 2 : 代入

- 配列 : 不可能
- 構造体 : 全メンバを一度に代入が可能

関数の返却値型として構造体を指定可能

- 構造体は代入が可能なので
- (配列はだめ; 代入が不可能なので)

List 12-6 (部分) : 構造体を返す関数の例

```
struct xyz {
    int    x;
    long   y;
    double z;
};
struct xyz xyz_of(int x, long y, double z)
{
    struct xyz temp;
    temp.x = x;
    temp.y = y;
    temp.z = z;
    return temp;
}
```

- 局所変数 temp に値を代入
- その構造体を値として関数値として返す

# 構造体の値を返却する関数の呼び出し例

List 12-6 (部分)

```
int main(void)
{
    struct xyz s;
    s = xyz_of(12, 7654321, 35.689);
    printf("xyz.x = %d\n", s.x);
    printf("xyz.y = %ld\n", s.y);
    printf("xyz.z = %f\n", s.z);
    return 0;
}
```

## 実行結果

```
xyz.x = 12
xyz.y = 7654321
xyz.z = 35.689000
```

## 名前空間の分類 (4 種類)

- 1 ラベル名 (goto 文でのジャンプ先)
- 2 タグ名 (構造体の名前)
- 3 メンバ名 (構造体の構成要素)
- 4 一般的な識別子 (変数名/型名)

名前空間が異なれば同じ名前を使って良い (混乱しない)

```
int main(void) {  
    struct x { /*タグ名*/  
        int x; /*メンバ名*/  
        int y; /*メンバ名*/  
    } x; /*識別子*/  
x: /*ラベル名*/  
    x.x = 1; /*変数名.メンバ名*/  
    x.y = 5; /*変数名.メンバ名*/  
    return 0;  
}
```

構造体の配列を宣言できる

■ 他の型の配列と同様

List 12-7 (部分) : 構造体の定義と配列の宣言

```
typedef struct {
    char   name[NAME_LEN]; /* 名前 */
    int    height;          /* 身長 */
    float  weight;          /* 体重 */
} Student;
int main(void)
{
    Student std[] = { // 構造体の配列
        { "Sato",    178, 61.2}, /* 佐藤君 */
        { "Sanaka",  175, 62.5}, /* 佐中君 */
        { "Takao",   173, 86.2}, /* 高尾君 */
        { "Mike",    165, 72.3}, /* Mike君 */
        { "Masaki",  179, 77.5}, /* 真崎君 */
    };
    ... 略 ...
}
```

# 構造体の配列の宣言の例

初期化子を伴う宣言 (要素数は初期化子より自動決定)

```
Student std[] = { // 構造体の配列
    { "Sato", 178, 61.2}, /* 佐藤君 */
    { "Sanaka", 175, 62.5}, /* 佐中君 */
    { "Takao", 173, 86.2}, /* 高尾君 */
    { "Mike", 165, 72.3}, /* Mike君 */
    { "Masaki", 179, 77.5}, /* 真崎君 */
};
```

要素数を指定した宣言 (初期値は不指定)

```
Student std[10];
```

# 構造体の値の交換

List 12-7 (部分) : 2 つ構造体の値を交換

```
void swap_Student(Student *x, Student *y)
{
    Student temp = *x;
    *x = *y;
    *y = temp;
}
```

構造体から構造体への代入ができる

(注意: 配列から配列への代入はできないのでしたよね...)



# 構造体の配列のソート

List 12-7 (部分) : 5 人のデータを身長でソート

```
void sort_by_height(Student a[], int n)
{
    for (int i = 0; i < n - 1; i++) {
        for (int j = n - 1; j > i; j--)
            if (a[j - 1].height > a[j].height)
                swap_Student(&a[j - 1], &a[j]);
    }
}
```

## バブルソート

- 身長的大小を比較
- 構造体の内容をまるごと交換

## 派生型 p.342

### 派生型 (derived type)

既存のデータ型から作り出された新たなデータ型

- 無数に新たな定義が可能

### 派生により作られる型

- 配列型：要素の型と要素の数から決まる
- 構造体型：列挙されたメンバのリストから決まる
- 共用体型：重なり合うメンバのリストから決まる
- 関数型：返却値型と仮引数の型のリストから決まる
- ポインタ型：オブジェクトまたは関数の型から決まる

## 第 12-2 節 メンバとしての構造体

List 12-8 (抜粋) より

$x$  と  $y$  の 2 つの値で 2 次元空間の点を表す構造体

```
typedef struct {
    double x;      /* X 座 標 */
    double y;      /* Y 座 標 */
} Point;
```

- タグ名は与えず typedef により別名の型を定義

2 点間の距離を求める関数

```
#define sqr(n) ((n) * (n)) /* 2 乗 値 を 求 め る */
double distance_of(Point p1, Point p2)
{
    return sqrt(sqr(p1.x - p2.x) + sqr(p1.y - p2.y));
}
```

## 座標を表す構造体の利用例

List 12-8 (抜粋) より : main 関数

```
int main(void)
{
    Point crnt, dest;
    printf("現在地のX座標:");   scanf("%lf", &crnt.x);
    printf("          Y座標:");   scanf("%lf", &crnt.y);
    printf("目的値のX座標:");   scanf("%lf", &dest.x);
    printf("          Y座標:");   scanf("%lf", &dest.y);
    printf("目的値までの距離は%.2fです。 \n",
           distance_of(crnt, dest));
    return 0;
}
```

Fig 12-13 メンバに構造体を持つ構造体

```
typedef struct {  
    double x;      /* X 座 標 */  
    double y;      /* Y 座 標 */  
} Point;  
  
typedef struct {  
    Point pt;       /* 現在位置 */  
    double fuel;    /* 残り燃料 */  
} Car;
```

変数宣言の例 (Car 構造体の中に Point 構造体が含まれている)

```
Car c;
```

メンバへのアクセス例

```
c.pt.x = 10.0;  
c.pt.y = 20.0;  
c.fuel = 100.0;
```

## List 12-9 概説 (1)

やっていること：自動車の移動

- 目的地の X,Y 座標を入力
- 移動 (燃料が減る), 現在位置を更新
- 以上を繰り返す

実行例

```
現在位置 : (0.00, 0.00)
残り燃料 : 90.00リットル
移動しますか【Yes...1 / No...0】 : 1
目的値のX座標 : 10
           Y座標 : 20
現在位置 : (10.00, 20.00)
残り燃料 : 67.64リットル
移動しますか【Yes...1 / No...0】 : 1
目的値のX座標 : 25
           Y座標 : 20
現在位置 : (25.00, 20.00)
残り燃料 : 52.64リットル
移動しますか【Yes...1 / No...0】 : 0
```

## List 12-9 概説 (2)

### 構造体 2 つ

```
/*=== 点の座標を表す構造体 ===*/  
typedef struct {  
    double x; /* X座標 */  
    double y; /* Y座標 */  
} Point;  
  
/*=== 自動車を表す構造体 ===*/  
typedef struct {  
    Point pt; /* 現在位置 */  
    double fuel; /* 残り燃料 */  
} Car;
```



## List 12-9 概説 (3)

main 関数

初期位置は原点 (0,0), 燃料 90 で動作開始

```
int main(void)
{
    Car mycar = {{0.0, 0.0}, 90.0}; /*初期の位置と燃料*/
    while (1) {
        int select;
        Point dest;          /* 目的地の座標 */
        put_info(mycar);     /* 現在位置と残り燃料を表示 */
        printf("移動しますか【Yes...1 / No...0】 : ");
        scanf("%d", &select);
        if (select != 1) break;
        printf("目的値のX座標:");   scanf("%lf", &dest.x);
        printf("          Y座標:");   scanf("%lf", &dest.y);
        if (!move(&mycar, dest))
            puts("\a燃料不足で移動できません。");
    }
    return 0;
}
```

## List 12-9 概説 (4)

移動: move 関数

```
/*--- cの指す車を目的座標 dest に移動 ---*/  
int move(Car *c, Point dest)  
{  
    double d = distance_of(c->pt, dest); /* 移動距離 */  
    if (d > c->fuel) /* 移動距離が燃料を超過 */  
        return 0; /* 移動不可 */  
    c->pt = dest; /* 現在位置を更新 ( dest に移動 ) */  
    c->fuel -= d; /* 燃料を更新 ( 移動距離 d の分だけ減る ) */  
    return 1; /* 移動成功 */  
}
```

リッター 1 メートルの燃費が悪い車です

おわり

## 番外編の課題 1

### 複数天体の運行シミュレーション

- 天体は互いの重力で影響し合い移動
- 1 秒ごとの各天体の位置と速度を表示
- 質量, 初期位置, 初期速度, その他詳細は各自で適宜設定のこと

```
#define HBNAME    64
struct hbody {
    char    name[HBNAME]; /*天体名*/
    double m;             /*質量[kg]*/
    double x,  y,  z;      /*位置[m]*/
    double vx, vy, vz;     /*速度[m/s]*/
};
#define NHB    3
struct hbody stars[NHB];
```

構造体を使わないと変数宣言はこんなにもおぞましい (個人の主観)

```
#define NHB    3
char *name[NHB];
double m[NHB], x[NHB], y[NHB], z[NHB], vx[NHB], vy[NHB], vz[NHB];
```